

# 第49回 日本外来小児科学会 教育検討会 (Hybrid開催)

第49回教育検討会を3月9日(日)2025年福岡市にて開催します。今回のテーマは「プロフェッショナルリズム」です。医師のプロフェッショナルリズム教育(卓越性・人間性・説明責任・利他主義)の基礎と臨床現場での活用を学びます。また、教育部会の各委員会・検討会・WGよりの活動報告を行います。

日時: 2025年3月9日(日) 10:00 - 16:00

JR博多シティ会議室(9F #4) + オンライン配信(Zoom使用)

参加費 3,000円(医学生・初期研修医は無料), 要 事前参加申し込み

日本外来小児科学会の会員以外の方も参加できますが、医師・医学生が対象です。

教育検討委員会 副委員長 森田 潤, 当日連絡: 080-3732-0440, E-mail: [jun@clinic-morita.com](mailto:jun@clinic-morita.com)

第49回 教育検討会プログラム (敬称略) 3月9日(日) 10:00 -- 16:00

委員長挨拶 萱場 潤 10:00 - 10:05

講演1 & Group Work 10:05 - 11:30 座長: 岡本 茂

『なぜプロフェッショナルリズム教育は難しいのか? 教育を可能とするためには何が必要か? ~反転評価を用いたプロフェッショナルリズム教育 / SEA (Significant Event Analysis) を用いたプロフェッショナルリズム教育~』 遠藤 周 准教授(順天堂大学医学部教育研究室/小児科学講座)

近年、「医師と社会の信頼関係が崩れている」と言われている。ニュースでは毎月のように医学生や小児科医の不祥事が報じられている。何故、このようなことが起こっているのか。当然、医師の素養としてプロフェッショナルリズムは重要である。日本小児科学会も〈小児科専門医の医師像〉のひとつとして「医療のプロフェッショナル」を掲げている。しかし、よく仲間の医師達からは「プロ意識を教えることは難しい。」「そんなことできるのか。」と指摘を受ける。

今回は医療プロフェッショナルリズムの概説と、演者の行っている教育実践の一部をGW形式で体験していただきながら、一緒にプロフェッショナルリズム教育の難しさ・展望について考えてみたい。

演題 11:30 - 12:30 座長: 長井健祐

「シミュレーション教育としての視聴覚教材作成と教育的使用法の工夫」

武谷 茂 (久留米市・小児科医)

keywords: 臨床実習減少、トリアージ看護、個人情報保護、写真撮影と教育的使用の工夫、画像ライブラリー創設

救急外来トリアージ役のスタッフは、患児と出会ってすぐに①問診と②声かけに対する児の反応、③顔面の特徴的な情報(顔面の症状、SOS)をもとに、疾患や病態を即断・即応しなければなりません。そのため視聴覚教材によるシミュレーション教育は欠かせません。53年前から8年間民間救急病院で経験した症例写真を、医学や看護学教育で使ってきました。もちろん写真撮影と教育使用については、口頭で「説明と同意」を得ております。

外来スタッフ全員が周知すべき疾患や症状は①日常疾患の典型像と非典型像(例:麻疹)、②治療経過中の顔つきの変化(回復度合を顔つきから判断)、③突発する症状(例:けいれん発作)などが挙げられます。当日口演では①「初期印象診断/判断」の理論と実際、課題、②症例撮影の要領と教育的使用について、画像ライブラリー入庫を決めるのは「個人情報保護」か「臨床疾患教育」か?を検討したいと思います。

・追加発言: 画像ライブラリーWG 竹内孝仁

12:30- 13:30 昼食

教育部会 活動報告 13:30 - 14:30 座長: 萱場 潤

## ／生涯学習委員会

- ・自己学習プログラム検討会：長井健祐
- ・生涯学習セミナー：高田慶応

## ／医学生・若手医師支援委員会

- ・医学生・初期研修医ネットワーク：岡本 茂

鶴重美春（こどもどこ代表／富山大医5年），江南智香（同副代表／滋賀医科大5年）

医学生・研修医ネットワーク「こどもどこ」は、現在学生14名と研修医5名のスタッフで活動している。今年度の年次集会では、昨年度セミナーに関する一般演題を発表した。さらに10月には、新規スタッフ向けに国立成育医療研究センターでのセミナー内容を振り返る会を開催し、セミナーで得た学びを共有・深化する場を設けた。今後も、スタッフ一人ひとりの「学びたい!」という思いを形にできるよう、多彩で充実したセミナーを企画・実現していきたい。

## 講演2

14:30 - 15:30

座長：森田 潤

### 「飯塚病院における研修医教育～医師の働き方改革が始まる前と後～」

岡松由記（飯塚病院小児科部長）

当科は、初期研修医と小児科・家庭医総合プログラム専攻医の研修を行っています。医師の働き方改革による新たな規定を遵守するため、時間外のレクチャーを時間内に収める必要がありました。そのため、(1)筑豊小児科医会勉強会を自由参加としました、(2)小児プライマリー診療のロールプレイ形式のセミナーを週末に開催していましたが、研修期間中の業務の合間に複数コマのミニレクチャーに分割しました、(3)小児科医師の業務変更に伴い、救急外来1次診療を行わなくなったため時間外シフトに入ることがなくなりました。一見彼らの研修のチャンスが減ったようにも思われますが、積極性のある研修医は見つかるようになりました。

その他（事務連絡）15:30 - 15:45 終了予定